令和5年11月10日
環境生活部消費生活・文化課

令和5年度宮城県芸術選奨及び同新人賞受賞者一覧表

（別紙1／2）

【芸術選奨】

部門順・敬称略

受賞者 部　門	受賞理由（概要）	主な作品等
岩井　純 （いわい　じゅん・75歳） 美術（工芸）部門 	昭和23年生まれ。 仙台で築窯して47年の長きにわたり研究を行い、六華天目という独自の作風を確立した氏は、数多くの作品を意欲的に発表し、様々な公募展で入選を果たしてきただけでなく、平成6年には第1回目の日・韓陶芸交流展を主催したほか、平成15年にはイタリアで個展を開催するなど、国内にとどまらず国外においても活発な活動を続けてきた。 令和4年度は、10月に個展を開催し、制作デモンストレーションを行ったほか、令和5年1月には仙台市からの要請により、G7仙台科学技術大臣会合の記念品制作を手掛けた。 陶芸家として国内外で幅広く活動してきた豊かな経験を持ち、今なお表現の追求を続けながらも、陶芸制作によるリハビリ支援など社会貢献にも積極的に取り組んでおり、これからも県内の芸術活動に大きな影響を与えていくことが期待される。	 六華天目釉重ね鉢
小日向　慶可 （こひなた　けいか・68歳） 美術（書）部門 	昭和30年生まれ。 星弘道氏に師事し、伝統書を主軸に数々の書道展に意欲ある優秀な作品を発表しており、平成13年に河北書道展で宮城県知事賞、翌年は同展で河北賞、平成16年の宮城県芸術祭書道展で宮城県知事賞、平成28年の改組第3回日展に入選など、多くの実績を残してきた。 令和4年度は、第9回日展に入選しており、文字そのものが持つ美しさを引き出そうとたゆまぬ努力と探求心を持って書に向き合う氏は、今後の作品発表も注目に値する書家の一人である。 また、氏は、後進の指導にも熱心に取り組んでおり、基礎をしっかり学んでもらいながらも一人一人の個性を生かそうと個人に寄り添った丁寧な指導を行い、教室には30年以上通う者もいるなど、書道の魅力の普及にも大いに貢献している。 今後も優れた作品の発表と熱心な後進の育成により、本県を代表する書家の一人として書道界の発展に寄与することが期待される。	 第8回日展作「孟浩然誌」
海老名　和雄 （えびな　かずお・80歳） 美術（写真）部門 	昭和18年生まれ。 氏の作品は、河北写真展やニッコールフォトコンテスト、宮城県芸術祭などで受賞するなど、これまで高く評価されてきた。平成27年には第22回酒田市土門拳文化賞で奨励賞を受賞し、令和2年には同賞の土門拳文化賞の受賞を果たしている。 令和4年に開催した個展「命の行進・・祈る・・」で発表された作品は、津波犠牲者の供養のために南相馬市の僧侶が主催した慰霊行脚を写したものであり、氏の被写体に対する共感と尊敬が見て取れる。 また、氏は長きにわたり「ニッコールクラブ仙台支部」に所属し、自身の研鑽に努めるのみならず、メンバーや後輩の技術力向上を支援し、現在も同支部の顧問として指導を行っている。 「震災の犠牲者を忘れないでほしい」との願いを込めて精力的に活動を続ける氏の姿勢は写真家のみならず多くの人々の心を打ち、これからも被災地と作品を見る人との架け橋となることを期待したい。	 「命の行進」より「祈る」
佐藤　厚志 （さとう　あつし・41歳） 文芸部門 （C）新潮社	昭和57年生まれ。 平成29年に「蛇沼」が新潮新人賞を受けてデビューし、令和2年には「境界の円居」で仙台短篇文学賞大賞を受賞、令和3年には「象の皮膚」で三島由紀夫賞候補となるなど、着実に実績を積み重ねてきた。 令和4年度に月刊誌に発表した「荒地の家族」は、氏として初めての芥川龍之介賞候補作となり、更に見事受賞を果たした。また、その作品の発表から1か月後には県紙である河北新報紙上で「常盤団地第三号棟」の連載を開始するなど、間を置かず作品発表と功績を得ていることは、氏の小説家としての成長・成熟の著しさを物語るものであり、今後の活躍も大いに期待できる作家である。 また、各文芸誌や雑誌への寄稿も増え、東日本大震災関連のテレビ番組・報道番組等への出演などもしていることから、今後も宮城を代表する作家として幅広い活躍を通し震災の記憶や被災地の今を伝えていくことが期待される。	 「荒地の家族」（新潮社刊）
西沢　澄博 （にしざわ　きよひろ・43歳） 音楽部門 	昭和54年生まれ。 仙台フィルハーモニー管弦楽団の首席オーボエ奏者としての活動をベースに、数多くのコンサートに出演するほか、平成29年に始まった東北放送の「日立システムズ　エンジョイ！クラシック」でパーソナリティを務め、音楽の楽しさについて啓蒙する番組を担当するなど幅広い活動を展開している。 令和4年度は、仙台フィルハーモニー管弦楽団での活動のほかにも、管楽器アンサンブルの作品によるコンサートのプロデュース及び出演を行ったほか、オーボエリサイタルを開催し、委嘱作品という演奏上リスクの高い作品を作曲家に依頼し披露するなど、精力的に活動を行った。 また、指導者としての活動も目覚ましく、大学や団体など様々な場で指導を行い、優秀な弟子を輩出している。 今後も演奏活動を通じて楽器の魅力を伝え、音楽の素晴らしさを広めていくことが期待される。	 「西沢澄博　オーボエ・リサイタル」より

令和5年度宮城県芸術選奨及び同新人賞受賞者一覧表　　（別紙2／2）

受賞者 部　門	受賞理由（概要）	主な作品等
伊藤　み弥 （いとう　みや） 演劇部門 	震災復興支援団体に勤務しながら、これまでフリーランスの立場で舞台演出活動を行っている。 演出家として、ストレートプレイから歌劇まで幅広く活躍しており、様々な集団において良質な作品を残している。 令和4年度には、故郷の閖上を題材にした演劇「猫と縁側」仙台公演のプロデューサーを務めたほか、仙台オペラ協会「コジ・ファン・トゥッテ」の演出助手、ドレミファピアチェーレ主催オペレッタ「だんまりくらべ」の演出、宮城野区文化センター主催ワンコインシアター「道の奥には」の演出など幅広く活躍しており、「道の奥には」の演出においては、小説をそのまま舞台化するという優れた構想力を発揮した。 今後も、舞台演出のみならず幅広い分野での活躍と、宮城の舞台芸術の更なる振興への貢献を期待したい。	 仙台オペラ協会第43回公演「修道女アンジェリカ」

【芸術選奨新人賞】

受賞者 部　門	受賞理由（概要）	主な作品等
山内　文貴 （やまのうち　ふみたか ・40歳） 美術（洋画）部門 	昭和58年生まれ。 ポップな現代アートの作家であり、平成27年に若手作家のための公募制の美術賞「シェル美術賞」展（令和4年より「Idemitsu Art Award」と改称）において、審査員奨励賞を受賞している。その後も個展を中心に作品を発表しているほか、平成29年以降は、「新現美術協会展」にも意欲作を毎年発表するなど、活発な活動を続けている。 令和4年度は、県内において個展「山内文貴展“エジプティック・アクセス”」を開催したほか、東北芸術工科大学で開催されたグループ展への参加、新現美術協会展での作品発表など、精力的に活動しており、その姿勢は若年層への指針となるものである。 近年は、絵画制作のみならず、音楽アプリのサブスクリプションサービスでの楽曲配信（ギター弾き語り等）も始めるなど、マルチアーティストとしての活動の広がりも感じさせており、県内の若手芸術家に刺激を与える存在として、今後も意欲を持って活動を行い、より一層の活躍を期待したい。	 「グロッシー・ニンジャ～心はよみがえる＋“SHINOBI”シークレットダイアリー（ツヤあり）置き場」
佐野　美里 （さの　みさと・36歳） 美術（彫刻）部門 	昭和62年生まれ。 作品を自刻像（ポートレート）と位置づけ、その時々の自分自身を「犬」の姿で表現しており、作品制作を行う動機付けが等身大で、その作品は鑑賞者に訴えかける独創性がある。作品は、木の素材を生かし柔らかく曲線を基調としたフォルムに仕上げており、更に着彩を行うことで、ノミの彫り跡と独特な世界観が際立つ作りになっている。 令和4年度は、宮城県内で個展を2回開催したほかアメリカでも個展を開催しており、県内のみならず国境までも超えた多彩な活動を行った。 今後も、女性としてのパーソナリティを生かしたテーマを持ち、大小含め迫力ある作品を制作することで、立体造形の魅力を幅広く発信していくことが望まれる。 また、子供を対象としたワークショップの開催など、後進の育成にも取り組んでおり、今後も宮城県の彫刻文化の発展に寄与することが期待される。	 「sweet dreams」
鈴木　竜也 （すずき　りゅうや・28歳） メディア芸術部門 	平成6年生まれ。 監督を務めた実写・劇映画の「バット、フロム、トゥモロー」が、PFFフィルムアワード2016で入選。コロナ禍を機に独学でアニメーション技術を習得し、令和3年に一人で制作した「MAHOROBA」は、国内各地の映画祭で高い評価を得た。 令和4年度は、「無法の愛」を発表し、さまざまな映画作品へオマージュを捧げつつ独特な画風とユーモアあふれる物語が評価され、第9回新千歳空港国際アニメーション映画祭など多数の映画祭でグランプリや準グランプリ、審査員特別賞などを受賞した。 氏は、その背景に豊かな映画的教養を備えつつも、全くの独学で習得したアニメーション表現によって唯一無二の個性を発揮しており、多数の受賞歴からも明らかなように、その作品は親しみやすさと同時に高い作家性を有している。 個人制作によるアニメーションは、大きな資本や文化的素地に限らず地方においても可能な分野の一つであり、その好例として県内の表現者に勇気を与える氏のこれからの更なる飛躍に期待したい。	 短篇映画「無法の愛」

記載している年齢は令和5年11月1日時点の年齢です。